



4th APNG Camp @Busan

参加報告

JPNIC ng-tf
川端宏生
kawabata@nic.ad.jp

2003/09/19

参加目的

- インターネットの世界は誰かがルールを一方的に決めるのではなく、インターネットを使う人の意見が反映される形で決められていくべきだが、最もインターネットを道具として使いこなす世代がどのように考えているのか。
- JP/KR/TWといった、特にインターネットの普及が進んでいる国からの参加者が多い。日常の生活にどこまでインターネットが浸透しているのか、あるいは、どのようにインターネットが利用されているのか。
- 他国のインターネット関係団体との関係構築

主な活動

- IPv6セッションでの司会および発表
- 参加したセッション
 - IP-Phone・IDN・Security・ccTLD
- Internet Development WG立ち上げに参加

IPv6 session

- 目的
 - IPv6を支えるキーワードと活用事例をいくつか紹介し、現在の状況を共有する。
 - 今後どのように発展していくかを議論する。
- セッション概要
 - IPv6 over IPv4 Tunnel Broker
speaker: LIU Xin(Tsinghua Univ.)
 - IPv6 Deployment in China
speaker: LIU Xin
 - IPv6 in Korea
speaker: Shin Ho-Chul(Sungkyunkwan Univ.)
 - IPv6 Deployment status in JP
speaker: Hiroki KAWABATA(JPNIC)
- 約50分の開催 10名程度の参加者

IPv6 session(cont.)

- 成果
 - CN/KR/JPにおけるIPv6の普及状況に関する情報交換を行うことができた。
 - (反省点として)単なる報告に留まってしまったため、継続性を持たせるような内容にすることができなかった。
 - 今後活動予定のWorking Groupに引き継ぐことも可能性もある

成果とこれからに向けて

- コーディネータを中心に、参加者の興味に基づいた内容で、それぞれのセッションの運営を行った。
 - Technology trackの主体的な運営に参画
 - 事前準備の時間を取ることがあまりできなかった
- NIC間の情報交換や、人材育成への取り組み
 - インターネット関係団体や他のNICとの連携は今後の課題
 - 今後活動予定のWorking Groupにおいても議論したい
 - Key Personとの関係構築